相川養三氏の歩み

2011 年 3 月 4 日

19　年（昭和　　年）月　　日生まれ。現在、　歳。

＊御本人の弁：「戦後世代です。」

関西学院大学社会学部卒業。

1968 年（昭和 43 年）、創文社編集部に就職。

約 43 年間の編集者生活を経て、

2010 年 12 月末日、創文社を定年退職。

〈相川氏が編集された主な刊行物〉

・**「歴史学叢書」**：西洋中世史を核とした翻訳のシリーズ。

・**「叢書・身体の思想」**：倫理学から思想、歴史などを含むシリーズ。

・**「現代自由学芸叢書」**：全 18 冊、種々の賞を受賞。

・**「西谷啓治著作集」**

・**「ドイツ神秘主義叢書」**

・**「ハイデッガー全集」**：全 102 巻の予定。

そして、

・**「創文」**：創文社広報誌。戦後日本の知的世界で、恐らく最も深く愛読された読書界誌（*Zeitschrift für Leserkreis*）。2010年12月、第537号をもって惜しまれつつ終刊。

現代自由学芸叢書

自己組織性　社会理論の復活
今田高俊　自らの社会理論の旗印に《自己組織性》を選び、社会科学の根本命題に挑戦して、来たるべき社会の大型画面を構想。サントリー学芸賞受賞。A5・三二〇頁・四〇〇〇円

共生の作法　会話としての正義
井上達夫　エゴイストとの会話から異質な自律的人格の共生という社交体の理念を提示してリベラリズムの積極的社会像を展開。サントリー学芸賞受賞。A5・三〇四頁・三八〇〇円

権利と人格　超個人主義の規範理論
森村　進　生涯を通じた人格ではなく「柔らかい人格」に基づく個人を超えたインパーソナルな開かれた法と道徳の規範理論を大胆に構築する。A5・二六〇頁・三八〇〇円

都市と権力　飢餓と飽食の歴史社会学
藤田弘夫　都市は食糧生産を行わないにも拘らず、農村より飢餓が少ないのは何故か。都市の成立根拠を権力に求め保障と支配の座標軸から解明する。A5・三七〇頁・四五〇〇円

カオスの時代の合意学
合意形成研究会　超領域的な議論の広場を創造する一三名の著者が、揺らぐ世界における合意形成の原理と動態を多角的に捉えた挑戦の書。A5・二七〇頁・三二〇〇円

エゴイストの共存　人間・倫理・政治
平尾　透　全ての人間はエゴイストである。彼らは如何にして社会的共同生活を営むか。功利性原理の立場から幸福主義の新しい政治哲学を展開する。A5・三九二頁・四八〇〇円

自由の論法　ポパー・ミーゼス・ハイエク
橋本　努　二〇世紀における社会科学方法論を思想闘争に対する問題解決という観点から問い直し、新たな自由の論じ方を提示する。A5・三二四頁・四二〇〇円

現代倫理学の冒険　社会理論のネットワーキングへ
川本隆史　メンバーの自由・平等・福祉をバランスさせる社会をどう構想するのか。果敢な論争をくり広げる現代正義論を展望し応用倫理学を構築する。A5・三三頁・三五〇〇円

制度論の構図
盛山和夫　制度を客観的に存在するものとしてではなく、人々の主観的な意味世界の中に実在するものとしてとらえ、制度にまつわる謎を解明する。A5・三六頁・四二〇〇円

市場経済の哲学
桂木隆夫　日本の市場経済をより普遍化しうるのは多様な自由の枠組を切り拓く生活者であるとの立場から、市場倫理学と寛容の戦略を提示する。A5・三四頁・二九〇〇円

デモクラシーを生きる　トクヴィルにおける政治の再発見
宇野重規　〈デモクラシーの時代〉を生きるトクヴィルを描いて政治のもつ豊かな多様性を探り、現代政治にも新たな指針を示す。A5・二六六頁・三五〇〇円

コミュニティの法理論
名和田是彦　現代のコミュニティは、社会的決定の主体でありうることをラディカルに主張し、生活世界からの法創造を試みる挑戦の書。A5・二〇〇頁・二九〇〇円

他者への自由　公共性の哲学としてのリベラリズム
井上達夫　自由を自己中心性の檻から解放し、「他者からの自由」も超える「他者への自由」を、新たな公共性の哲学として大胆に構想した意欲作。A5・二六〇頁・三五〇〇円

新社会哲学宣言
山脇直司　「自己-他者-世界」了解を社会認識の中核にすえて、公共世界という観点から、社会理論と哲学を新たな次元で再統合する。A5・二五六頁・三三〇〇円

福沢諭吉　文明と社会構想
中村敏子　福沢の文明論に歴史の洞察を見たうえで、家族が直面する社会の現実のなかで福沢の思想を生かし得る社会構想を提示する。A5・三六頁・三〇〇〇円

現代自由学芸叢書　品切書一覧

豊永郁子
サッチャリズムの世紀

坂本多加雄
市場・道徳・秩序

苅部　直
光の領国　和辻哲郎